

碑銘「開拓之碑」

新潟県妙高市・大洞原開拓

新潟県南西部に位置し、長野県に接している妙高市関山は、国内有数の豪雪地帯。戦後、県内最大の入植があったが、残り得たのは25戸の大洞原開拓集落のみだった。

1946（昭和21）年、妙高山麓の標高600mの高冷地に入植したものの、厳寒のため49年に400mの現在地に移動。雪深い地域だったが、永住の地と定めた。広大な山野を控えながら稲作しかない地帯に、開拓者達はバレイショ原種栽培や高冷地抑制トマトなどの畑作園芸を取り入れ、酪農も興した。現在、高原の開拓地内では、トマト栽培など高冷地野菜を中心とした営農がされている。

開拓記念碑は87年、開拓地の集会所敷地内に建立された。碑銘は「開拓之碑」で、裏が碑文と入植者氏名となっている。碑文の後段には、「時代の変遷に伴い目的は夫れ夫れ変化しつつあるが開拓一世が残した足跡は厳然として存在するものである」と記してある。

大洞原開拓記念碑

- ①位置 妙高市関山 (36° 54' 59.7"N 138° 12' 31.3"E)
- ②設置者 入植者一同
- ③設置日 昭和62年
- ④碑文表 開拓之碑
- ⑤碑文裏 昭和21年妙高山麓の開拓として旧関山村五最地区に入植せるも諸種の事情により昭和24年春現在地を開拓し永住の地を定む
当時25戸の同志は現在23戸となり若干の変動はあったものの今も尚其の意志を継承す 時代の変遷に伴い目的は夫れ夫れ変化しつつあるが開拓一世が残した足跡は厳然として存在するものである よって開拓40周年し後世に事業遂行の意義の一端の認知を期待するものである
昭和62年吉日 建之
23名の氏名
- ⑦記念碑の現在の立地状況
高原の開拓地の集会所敷地内に立地し、開拓地内はトマト栽培など高冷地野菜を中心とした営農がされている。

